

ホームページの掲載	
予定	2月14日掲載予定

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

校長 都竹 輝昌  
 学校住所 岐阜市西秋沢 2-262-1 電話 058-239-9712

1 会議の名称 岐阜県立岐阜本巣特別支援学校学校評議員会

2 会議の構成 委員 今井 正聰 株式会社サン・シング東海 常務取締役（ご欠席）  
 岩越 康真 あじろ診療所副院長・ひめゆり療育センター副センター長  
 岡崎 良高 本巣市障がい者就労支援センターみつば所長  
 早川 忠利 西秋沢地区自治会長  
 松尾 綾子 本巣市本巣民生児童委員

(委員名は五十音順)

学校側	寺島 千夏	PTA会長	┆	阪之下弘則	小学部主事
	都竹 輝昌	校長	┆	高橋 秀樹	中学部主事
	丸山 忠	事務長	┆	小野島弥生	高等部主事
	西村三紀郎	教頭	┆	鹿嶋 成美	教務主任

3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者等から幅広く意見を求め、充実した教育活動を展開するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進することを目的とする。

4 会議の開催 日時：平成25年1月17日（木）午前9時30分～11時30分  
 場所：岐阜本巣特別支援学校校長室  
 出席者：委員4人、学校側8人

5 会議の概要

(1) 校長挨拶

- ・本日の学校評議員会よろしくお願ひします。
- ・本校は総合特別支援学校として知肢病の各障がいに応じた教育をしていますが、職員の専門性の向上と、95%以上が知的障がい有する生徒で、教育の在り方が課題となっています。
- ・最初に自己評価アンケートの結果とその分析を報告しますので、先ほどの課題と併せてご提言をお願いします。

(2) 全体会議

自己評価についての説明
-------------

- ・教頭より資料をもとに、学校評価に関わるアンケート集計結果について説明

○保護者・学校評議員へのアンケートについて

肯定的な評価が圧倒的に高く全般的に学校の方針が支持されていると考えられるが、保護者の肯定感の差は存在するので、今後も広報活動充実し、開かれた学校を目指す必要がある。

“県市の社会資源利用の積極的活動”についての項目が評価が比較的低いものがあった。

## ○高等部生徒へのアンケートについて

全般に回答が難しい質問項目もあり、「わからない」の回答が増えた。昨年度との数値の変動が大きい事項については、生徒の実態に配慮して、細心の注意を払って生徒に接し、支援する必要がある。

学校側 生徒アンケートの評価が前年度から変動が大きいのは、アンケート実施における教員説明が足らなかったことにもよる。また、質問文が生徒に理解できない表現であり、かみ砕いた内容で実施すべきであった。アンケート実施時期が7月ということは本校の現状をつかむのには早いため、前期末頃が適していると考えている。

意見1 前年度と文面は同じ内容であるので、生徒が変化したのか。

意見2 次回以降、生徒が答えやすい短い文のアンケートでお願いしたい。教員の厳しい言葉があることを聞いているが、小さな声も拾う文でお願いしたい。とは言うものの叱るときは、しっかり叱って欲しい。

学校側 次回以降、生徒については適切な設問で実施します。

### その他の提言

意見1 通学のアクセス方法で将来を見通した確保や指導が必要ではないか。各家庭で送迎ができる状態が続くとは限らない。樽見鉄道の将来的な存続と本校へのアクセスにつながる本巣バス運行などが期待できると良いが、心配である。また、樽見鉄道利用や公共交通機関利用は生徒の社会性の育成の学習になるという観点からも何とかならないものであろうか。

学校側 確かに樽見鉄道利用も一つの社会参加の力を付ける場である。当面の通学手段の確保の動きとして、来年度はスクールバスが1台増える。しかし、現在の保護者の負担が改善されるとは言い難い。コミュニティバスへの要望を含め課題は多く残されている。

### 平成25年度に向けて

校長 創立5年目になるが、本校の特色が確立されていません。小中高の各学部のなかでの特色ある教育活動を実施する必要があるため、来年度に向けて各学部で検討して計画である。

職員の専門性や経験が不十分である。このことを踏まえて、研修等の計画をする予定である。

意見1 岐阜市の本校近隣に在住の重症心身障がい生徒が他の特別支援学校に就学してしまう現状がある。家庭事情の変化に対応できる近い学校に通うようになることが良いのではないかと。

意見2 全国重症心身障害児(者)を守る会の在籍者がほとんど無く、本校への情報が行き渡らない現状である。情報が入るようにしていきたい。

学校側 本校は総合的な特別支援学校であるが、95%以上は知的障がいの生徒が在籍しており、その中で

重症心身障がい児童生徒への医療的ケアの体制が他の特別支援学校等の学校と比べると弱い現状がある。子どもの減少にもかかわらず、療育手帳配付が年々増加している中で、特別支援学校の在り方を考える時期と思われる。岐阜希望が丘特別支援学校の高等部設立により、一校での総合化というより岐阜市という地域の枠内での総合化になってくるように思われる。

#### 高等部作業製品の価格について

- ・新商品の価格案と製品を見ていただくとともに試食していただき価格検討をお願いした。
- ・手工芸班の製品の岐阜城北高校とのコラボレーション製品の説明をした。

意見1 おいしいクッキーや非常に手間を掛けている織物等の製品で、安いように思われるが、販売を考えると妥当な価格である。

意見2 作業製品の販売期日、期間等はどうなっているのか。一般・地域の方々へ販売できるとよい。売れるために、さらに工夫を考えることも必要。

学校側 café 和 ーなごみーの営業日、下校時迎えの時（保護者・職員）、学校祭等で販売している。昨年度のこの会を受けて、手工芸班の岐阜城北高校とコラボレーション製品の展示会等もしている。作業学習の時間数も少なく、大量生産は難しい面もあるが、今後作業学習の充実と販路拡大をしていきたい。

※意義なく価格については妥当であると認めていただいた。

### (3) 連絡

※卒業式の日程報告と出席依頼。

## 7 会議のまとめ

本日はご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。また、この会で貴重なご意見をいただきましたので、いただいたご意見を参考に学校改善に努めていきたいと存じます。

#### 授業・施設を見学

- ・高等部作業学習食品加工班のcafé 和 の見学